

◎ 4 学 年

学級担任	機械工学科	松田 雄二
	電気工学科	伊月 宣之
	電子制御工学科	深山 幸穂
	生物応用化学科	中山 享
	材料工学科	新田 敦己

○運営目標の実施状況とその成果

1 基本方針

第4学年は高専教育の中核を担う時期であることに鑑み、学力向上や資格取得に向け、主体的に努力する気風を醸成し、共に学び切磋琢磨する学級を確立することを運営目標とする。ことに、学生の進路を決定づける学年であることから、進路指導およびインターンシップの拡充を推進する。

2 年間目標と実施結果

〔1〕 主体的に努力する気風の醸成

学習教育目標と第4学年の重要性を説明し、学習意欲の喚起をはかると共に、学生の作文と個別面談を通じて個々の学生に応じた学力向上の具体策を助言し、各科目担当と連携して不得意科目の克服を指導した。これにより、就職や大学編入の試験問題の学習や校内実力試験や各種資格試験の受験を通じた学生の主体的な努力を促進し、TOEIC の得点力向上等の成果を得た。さらに、これらの取組は第5学年における就職・進学実績として結実することを期待している。

〔2〕 共に学び切磋琢磨する学級の確立

委員・日直・週番を中心として学生が自ら律する気風を育み、常に学生との対話を絶やさぬよう心がけると共に、家庭や寮と連携して欠課・遅刻の撲滅に努めた。さらに、アルバイトについては、届出の徹底、成績不振者の就業自粛を含む頻度の適正化を指導した。しかしながら、これらの取組によっても、欠課・遅刻や成績不振者の数は例年に比して大きくは改善されず、第5学年においても粘り強い努力を継続したい。

〔3〕 進路指導およびインターンシップの拡充

インターンシップの推進にあたっては、事前学習により実習の動機付けとマナーの徹底をはかり、実習体験とその成果纏めを通じて職業意識の醸成と社会の一員であることの自覚させた。併せて、教員の訪問や日常的な連絡により企業との連携を強化して効果を上げた。さらに、進路指導では、個別面談を通じて1月段階を目処に学生の意思決定を支援し、常に、求人・大学編入学の最新情報を開示するよう努めている。これらの取組が進路の実績として結実することを期待している。

○総括的な評価と課題

基本方針とした、主体的に努力する気風の醸成、共に学び切磋琢磨する学級の確立、および、進路指導とインターンシップの拡充については、担任相互の適宜の打合せや電子メールによる緊密な連絡・協力等を通じて成果を得たと評価できる。しかしながら、教務委員会、学生委員会、各学科会議との連携において、いまだ改善の余地があり、次年度の課題である。